
線香花火

來澄 和樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

線香花火

【Nコード】

N6842K

【作者名】

來澄 和樹

【あらすじ】

友達と行った夏祭りの帰りに皆ですることになった花火
私はその中の線香花火に、とある想いを託して……

片思いの少女の気持ちを描いた、短編ラブストーリー

「え、もうこれだけ？」

「早いね」

「ゲホツ、喉痛いー」

ある夏の夜。数人の友達と夏祭りに行った後、花火をやるうとうことになった。適当に買ってきた手持ち花火は、あっという間に線香花火だけになった

「やっぱり最後は線香花火でしょ」

「だよな」

「何だそれ。どれからやっても一緒だろ？」

「わかんないヤツは黙ってて」

「何だよ、ったく」

「まあまあ、いいんじゃないの？」

「知ってる？線香花火が最後まで続いたら、願いが叶うんだって」

友達のその何気ない言葉は、私の意識を花火からある人物へと変えた

「はい、これ」

「ありがとう」

「あ、一人一本しかないね」

「じゃあこれで最後か」

そう言っ て火を点ける。私は今一緒にいる人を想いながら、花火を見つめた

「あー、終わったー」

「わっ、落ちた」

「お、すげー！まだ続いてんのな」

私の持つ花火はまだ続いていて、最後まで続いてほしいと密かに願う

「あ……」

「残念だったな」

「やったあ！」

「何だ？最後までいったのか？」

「そつよー」

目の前で喜ぶ友達を見、羨ましいなと思う

「よし、片付けるか」

「あ、うん」

片付けをしながら、目の前にいる片思いの相手をちらっと見た。
線香花火は続かなかつたけど、でもこの恋、頑張ってみようかな、
なんて……

今は友達

この状況に甘えていた

だけど勇気を持つのも、ありかな……

そんな夏休み

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6842k/>

線香花火

2010年10月11日21時52分発行